

# 新時代の 新たな学校づくりへ



☎教育総務課 ☎0538-37-2115 FAX0538-36-1517

市では、小中一貫教育、コミュニティ・スクールのさらなる推進や、よりよい教育環境の充実を図り、未来を見据えた新たな学校づくりに取り組んでいます。

## これまでの取り組み

市では、平成25年度から段階的に小中一貫教育を導入し、平成28年度からは全10学府で実施しています。

小中学校を連続した一つの期間として考え、9年間を見通した教育や、小中学校間で子どもの情報交換を行い、生活面の課題解消などに取り組んできました。

またコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、学校や保護者、地域で暮らす方が一体となり、情報共有をしながら、学校を運営し、子どもたちの健全育成に取り組んできました。

## 子どもたちを取り巻く状況

### ①児童生徒数の減少

平成29年5月1日現在、

市内の小中学校に通う児童生徒の数は1万3944人です。しかし、人口と同様に減少傾向であり、20年後は1万人、30年後は9千人を下回る可能性があります。

### ②人間的なつながりの希薄化

人口減少や少子高齢化などにより地域コミュニティのバランスが崩れ、人と人とのつながりが希薄化し、子ども同士の交流の減少も懸念されています。

### ③校舎の老朽化

校舎など教育施設の老朽化が進んでおり、計画的な修繕や建て替えを実施する必要があります。

## 新たな学校づくりへ

このような状況の中で、子どもたちがたくましく育っていくために、これまで取り組んできた小中一貫教育やコミュニティ・スクールをさらに発展させた、未来を見据えた新しい学校づくりを進めていくことが必要です。

## 学府一体校の形態

### 未来型学府一体校Ⅰ（A型）



各学府にある小学校と中学校を全て、施設一体型として1つの敷地に設置するもの

### 向上型学府一体校（B型）



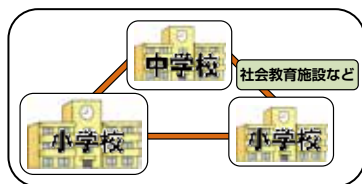
学府内に施設一体型の小中学校と既存施設で運営する小学校が存在するもの

### 未来型学府一体校Ⅱ（A'型）



中学校を2つに分け、既存小学校校区それぞれに、施設一体型として設置するもの

### 充実型学府一体校（C型）



現在行われているように、既存施設のまま小中一貫教育を推進し、社会教育施設を含むもの

その一つが「学府一体校」です。学府一体校は、学府内にある小中学校を同一敷地に設置するもののほか、左図のようにいくつかの形態が考えられています。また、子ども・地域に暮らす方・先生がそれぞれ「人と人とのつながりを深める」こと、子どもたちの発達段階の特性や不登校などに対

応した「9年間の新カリキュラムの開発」、図書館などの社会教育施設などを含む「多機能型学校の検討」もしていきます。子どもや地域の実態を踏まえ、地域に暮らす方や保護者の皆さんと話し合いながら、一体校の導入を進めていきます。

※学府・・・小中一貫教育を行う中学校区を単位とした学校群を磐田市では学府と呼んでいます

## 人と人とのつながりを深める

学府一体校によって、子どもたち、先生、地域で暮らす方はこれまで以上に人との出会いを経験し、人と人とのつながりが深まります。

### 子ども同士のつながりの深まり

交流スペースなどで小中学生が共に過ごすことで、小学生は身近な目標ができ、中学生は頼りにされることで自分が大切な存在であることが分かります。

### 子どもと地域で暮らす方とのつながりの深まり

学府を一体と捉えることで、地域で暮らす多くの人たちと交流する機会が増え、これまで以上に地域に対する愛着の気持ちを育むことができます。

### 小中学校の先生同士のつながりの深まり

小学校と中学校の先生がこれまで以上に関わりを持つことで、先生方の指導する力が向上するとともに、子どもたちの学力の向上につながっていきます。

## 9年間の新カリキュラムの開発

これまでの学習指導の計画（カリキュラム）を見直し、子どもたちの現状に対応したり、子どもたちの持つ可能性をこれまで以上に伸ばしたりするために、9年間の新しいカリキュラムの開発に取り組みます。

たとえば・・・

小学校高学年頃にあると考えられる発達上の段差や、増加傾向にある不登校に対応するカリキュラムの開発

発展的な学習内容や、補足的な学習内容を自分で選択しながら学ぶことができるカリキュラムの開発

上記のカリキュラムなど、各学府の実情に合わせたカリキュラムを研究・開発していきます。

## 多機能型学校の検討

学校と図書館などの社会教育施設などが複合した多機能型学校の整備を検討していきます。地域で暮らす方も一緒に施設を使うことで、学校を核とした地域づくりも推進されます。

たとえば・・・



図書館



ランチルーム



地域連携室



放課後児童クラブ

| 年度  | 今後のスケジュール |
|-----|-----------|
| H28 | 基本構想策定    |
| H29 |           |
| H30 | 基本設計・実施設計 |
| H31 |           |
| H32 | 建設        |
| H33 |           |
|     | 開校        |

ながふじ学府の方向性としては、豊田中学校と豊田北部小学校を一体とした「向上型学府一体校（B型）」としてスタートし、将来的には豊田東小学校を含めた「未来型学府一体校Ⅰ（A型）」を目指します。また校舎の建設場所は現在の豊田中学校の敷地を予定しています。

市で最初の学府一体校として、平成33年度に開校を予定している「ながふじ学府一体校」は、これまでに学識経験者、地域住民、保護者、教員などで構成する「新たな学校づくり検討会」で方向性や建設場所などを話し合ってきました。

**ながふじ学府一体校の方向性**